

# まめーる (北陸産大豆振興協議会メルマガ第11号)

平成21年11月発行

発行者：北陸産大豆振興協議会事務局 北陸農政局生産経営流通部農産課豆類振興係  
TEL076-263-2161(内線3318) 076-232-4302(直通)

## 1. 平成21年度北陸ブロック大豆現地検討会を開催しました！



北陸産大豆振興協議会では、平成21年9月28日(月)に富山市にて「北陸ブロック大豆現地検討会」を開催しました。

当日は、行政関係者、試験研究機関、普及指導機関、生産者、生産者団体等70名を超える参加がありました。

開催にあたってご協力いただいた皆様、またご参加いただいた皆様、どうもありがとうございました！

### 1. 室内検討会

【13:00～14:45 大沢野ウェルネスリゾートウインディ会議室にて】

(1) 中央農業総合研究センター大豆生産安定研究チーム 島田 信二 チーム長

「大豆の安定生産と土壌水分管理について」

・大豆の安定多収には根粒の窒素固定能力を最大限に発揮させることが大切であり、そのためには土壌水分と酸素の供給の調節が重要となる。

・土壌有機物投入による団粒構造の発達や地下からの給水等により、土壌水分の供給と土壌中への酸素拡散の両立は可能であり、地下からの灌水は根粒へ水分と酸素の供給の両立を図る上で好適と考えられる。

・近年、排水機能と地下からの灌水機能を併せ持ち、地下水位を自由に設定できる地下水位制御システム

(以下、FOEAS)が開発された。

・FOEASの利点として、作業性の向上(降雨後のより速やかな作業開始)、土壌水分の調整による出芽・苗立ちの向上と根粒窒素固定量の向上、増収効果が認められている。

・ただしFOEASの効果は土壌の種類で異なるため、導入を検討する際には土壌種類を考慮する必要がある。



【島田チーム長】

(2) 中央農業総合研究センター北陸水田輪作研究チーム 細川 寿 チーム長

「耕うん同時畝立て密植栽培技術について」

・発芽時・生育時の湿害回避、発芽時の乾燥害回避、碎土率向上（土塊を小さく）、降雨リスク回避・作業効率向上を目的として、これまでにホルダー型アップカッターロータリによる耕うん同時畝立て播種技術を開発。この技術により、地下水位の低下、土壤水分の低下、土中酸素濃度の維持が図られ、増収効果が認められている。

・麦後大豆のように播種時期が遅くなる場合や地力低下等により、通常栽培では条間を覆うほどの生育ができず、収量が低下する場合がある。また中耕培土時期が梅雨に相当する栽培では、十分に中耕できないこともある。

そこで、播種条間を狭くした「耕うん同時畝立て密植栽培技術」の検討を行った。

・耕うん同時畝立て密植栽培技術では、条間が狭いため大豆は早く地表面を覆い、雑草発生の抑制が期待できる。また、中耕培土の省略により作業の省力化の可能性もある。ただし、主茎長が長くなりやすいため、倒伏程度が大きいという問題がある。倒伏程度が小さい条件下で収量の増加する割合が高くなるデータが得られている。

・今後の課題としては、倒伏しにくい品種の選定（北陸の主要品種であるエンレイは倒伏しやすい）、播種時期や播種密度等の導入条件の策定、除草体系の確立が挙げられる。



【細川チーム長】

(3) 中央農業総合研究センター北陸水田輪作研究チーム 大野 智史 主任研究員

「田畑輪換体系に伴う窒素肥沃度の低下について」

・北陸地域の気象・土壌の特徴としては、年降水量が多く、特に11～3月にかけて顕著であること、湿性の強い強グライ土が発達・生成していることが挙げられる。

・大豆作における窒素収支は負となる。大豆の作付けは、圃場から窒素を持ち出すことになり、土壌中の窒素を減少させる一因である。

・窒素供給量が大豆の生育に及ぼす影響については、窒素供給量の低下が大きいと、莢数、百粒重が減少し、子実重が減少する。また、生育後半の窒素供給が減少すると、莢数が同程度であっても百粒重が減少する。



【大野主任研究員】



【講演を聴く参加者】

## 2, 現地圃場視察

【15:10～16:00 富山市東大久保の試験圃場にて】

(1) 耕うん同時畝立て密植栽培技術実証圃場(品種:「エンレイ」「東山213号」)

説明者: 中央農業総合研究センター北陸水田輪作研究チーム 細川 寿 チーム長  
富山農林振興センター農業普及第1課富山南部班 鍋島 学 班長

(2) 不耕起密植栽培技術実証圃場(品種:「エンレイ」)

説明者: 富山農林振興センター農業普及第1課富山南部班 野見山 誉 普及指導員

品種、播種方法等によって設けた各処理区について説明を受けた後、圃場を見学しました。密植区では培土作業なしで、雑草の発生が抑制されていました。



【各処理区について説明】



【各処理区を観察する参加者】



【収穫間近の大豆】

---

## 2. 第38回 全国豆類経営改善共励会の募集が始まりました!

---

第38回(平成21年度)全国豆類経営改善共励会の募集が始まりました。この共励会では、生産の向上や経営改善を図りながら、実需者ニーズにも対応する先進的な生産者を表彰しています。近年は、生産コスト低減を図る栽培管理、排水対策や適期防除、また実需者対応や「地産地消」を意識した取組などが評価ポイントの1つとなっています。

他の模範となる農家、集団のみなさまの多数の参加をお待ちしています。

参加申込の締切; 平成21年12月25日(金)

参加申込先; 以下、各県事務局までお願いします。

新潟県 農林水産部 農産園芸課 (025-280-5296)

富山県 農林水産部 農産食品課 (076-444-3283)

石川県米麦改良協会 [JA全農石川県本部米穀課内](076-240-5335)

JA福井県経済連 指導販売部 生産指導課 (0776-27-8256)

(北陸ブロックのこれまでの受賞者の概要については、北陸農政局ホームページをご覧ください)

<http://www.maff.go.jp/hokuriku/seisan/daizu/kyoreikai.html>

# 第38回(平成21年度)

## 全国豆類経営改善共励会のお知らせ

食料・農業・農村基本計画に基づき、食料自給率の向上を図る上で重要とされる豆類の生産を大幅に拡大するためには、生産性の向上のみならず、経営規模の大型化による他産業並みの所得の確保、実需者・消費者との連携による需要に見合った生産、加工による高付加価値等の取組を推進し、国際的な穀物需要の動向や国の行う生産・流通・消費対策に対応した生産性、商品性の高い豆類生産の定着を図ることが重要です。

このため、全国豆類経営改善共励会では、特に経営改善の面から先進的で他の範となる豆類生産農家及び生産集団を表彰するとともに、その成果を広く紹介します。

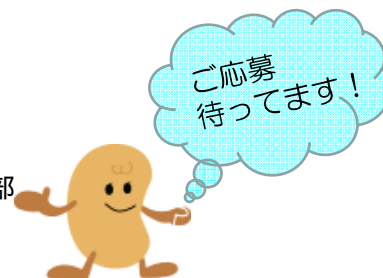
### 参加申し込み締め切り

平成21年12月25日(金)

お申し込みは裏面下の各県事務局までお願いします。

### 応募区分

- 1 大豆農家の部 2 大豆集団の部 3 小豆・いんげん・落花生等の部  
黒大豆等特定用途大豆は、小豆・いんげん・落花生等の部に含めます。



### 参加資格

次の要件を全て満たす農家又は集団であること。

- 1 原則として過去3年間以上、豆類を作付けした実績があること。ただし、経営面積が1ha以上であること。
- 2 出品豆類の作付面積が次の基準を満たしていること。

大豆農家の部 1ha以上

大豆集団の部 3ha以上

小豆・いんげん・落花生等の部 農家:10a以上、集団30a以上

(黒大豆等特定用途大豆は、農家30a以上、集団1ha以上)

なお、出品面積は、出品豆類の作付面積のすべてとし、豆類生産と加工を別々の農業者又は農業者で構成する組織が行い、契約により両者が結びついている場合は、共同で募集することもできます。

- 3 原則として過去3年以内に本共励会の表彰を受けていないこと。

### 表彰

全国審査会において特に優秀と認められた方々には、農林水産大臣賞をはじめ、各賞を授与します。なお、北陸ブロック審査会において優秀と認められた方々には北陸農政局長賞を授与します。

### スケジュール

期 日	主要行事
平成21年12月25日(金)	県共励会事務局への参加申し込み締め切り
平成22年 1月15日(金)	県共励会事務局からブロック共励会事務局への参加申し込み締め切り
1月22日(金)	ブロック共励会事務局から全国共励会事務局への参加申し込み締め切り
4月16日(金)	(県共励会事務局において審査を実施し、) 優秀農家及び集団をブロック共励会事務局へ推薦
4月23日(金)	(ブロック共励会事務局において審査を実施し、) 優秀農家及び集団を全国共励会事務局へ推薦
5月21日(金)	全 国 審 査 会
6月23日(水)	全 国 表 彰

# 前回(第37回[平成20年度])の全国豆類経営改善共励会における 北陸管内の受賞者の方々

## ～ 全国表彰 ～

### 【大豆農家の部】<sup>たかはら おさむ</sup> 高原 修 氏 (富山県砺波市)

大豆作付(エンレイ)・・・14.5ha、単収・・・250kg、上位等級(1,2等)比率・・・61.3%

高原 修さんは、地元集落だけでなく他の複数集落の大豆作も積極的に引き受け、水稻と大豆を基幹とする水田作経営として発展してきました。

また、排水対策など基本技術を大切にするだけでなく、新技術の情報収集やその導入に意欲的です。畝立同時施肥播種機の肥料タンクを改良するなど、独自の工夫をしています。

更には地元の幼稚園が行う米づくり体験や大豆の種まき体験に農地を提供し、栽培指導をするなど、地域住民とふれあひも大事にしています。

**【生産局長賞 受賞】**



### 【大豆集団の部】<sup>きば まち えいの うくみ あい</sup> 木場町営農組合 (石川県小松市)

大豆作付(エンレイ)・・・7.3ha、単収・・・268kg、上位等級(1,2等)比率・・・0.2%

集落全戸が参加した集落営農組織であり、平成19年度より大豆・大麦の協業組織となっています。大麦跡についてはすべて大豆作へ転換して土地の有効活用を図っています。

木場瀧周辺の湿地地帯という土壌条件の中、市内で最初に畝立同時播種機を導入し、排水対策の徹底により湿害を回避しています。

また、JA直売所「あくり」や地域の農業まつりで大豆を販売し、地産地消に貢献しています。

**【全国農業協同組合連合会長賞 受賞】**



## ～ 北陸ブロック表彰 ～

### 【大豆農家の部】<sup>もとだ としお</sup> 有限会社タケマツファーム 代表取締役 元田外志夫氏 (石川県白山市)

大豆作付(エンレイ)・・・18.96ha、単収・・・237kg、上位等級(1,2等)比率・・・0%

経営改善のため、地域内の大豆作を受託し、大豆は経営の基幹部門となっています。

畝立同時施肥播種機の使用及び無人ヘリによる基幹防除や乾燥調整をJAへ委託することでコスト低減を図っています。

**【北陸農政局長賞 受賞】**

### 【大豆集団の部】<sup>しまだ せいさん くみあい</sup> 島田生産組合 (新潟県上越市)

大豆作付(あやこがね)・・・11.69ha、単収・・・279kg、上位等級(1,2等)比率・・・96.2%

集落内の大豆生産をすべて受託。耕うん同時畝立施肥播種機に作業機の機能を追加し、播種前後の複数作業を同時に行っています。

平成18年に実需の要望の高い品種「あやこがね」を導入し、20年にはエンレイからあやこがねに切り替えて、JAを通じた契約生産を実施しています。

**【北陸農政局長賞 受賞】**

## 全国豆類経営改善共励会

主 催：全国農業協同組合中央会・全国新聞情報農業協同組合連合会・財団法人日本豆類基金協会

北陸ブロック事務局：北陸農政局生産経営流通部農産課豆類振興係(076-263-2161 内線3318)

各県事務局：新潟県 農林水産部 農産園芸課 (025-280-5296)

富山県 農林水産部 農産食品課 (076-444-3283)

石川県米麦改良協会 [JA全農石川県本部米穀課内] (076-240-5335)

JA福井県経済連 指導販売部 生産指導課 (0776-27-8256)

### 3. 平成21年産大豆の検査結果（北陸）（平成21年10月末日現在）について

平成21年産大豆の検査数量は、4,127トンで対前年同期比15%増となっています。1, 2等比率は、前年同期の26.9%より6.4ポイント高い33.3%となっています。

#### 21年産大豆の検査結果（北陸） （平成21年10月末日現在）

北陸農政局食糧部

##### 1. 検査概況

平成21年産大豆の検査数量は4,127トンで対前年同期比15%増になっています。

##### 2. 等級別数量

（単位：トン、%）

年 産	検査数量	普通大豆				特定加工用大豆	種子大豆
		1等	2等	3等	規格外	合格	合格
21年産	4,127	9.1%	24.2%	43.1%	0.6%	23.0%	
20年産	3,588	4.5%	22.4%	44.9%	1.0%	27.2%	
19年産	2,794		2.2%	19.6%	1.1%	77.2%	

- （注）
- 19年産から20年産については、同時期の検査実績です。
  - ラウンドの関係で計と内訳が一致しないことがあります（以下同じ）。
  - 特定加工用大豆は、豆腐・油揚げ、しょうゆ、きなこ等製品の段階において、大豆の原形をとどめない用途に使用する大豆に適用される規格です。
  - 普通大豆の規格外に、特定加工用大豆の規格外を含んでいます（以下同じ）。

##### 3. 粒度・品種・等級別数量（21年産）

###### （1）大粒大豆（主な用途：煮豆・味噌用）

（単位：トン、%）

品種名	検査数量	普通大豆				特定加工用大豆	種子大豆
		1等	2等	3等	規格外	合格	合格
あやこがね	6	21.4%	78.6%				
エンレイ	2,900	12.5%	27.7%	41.9%	0.1%	17.8%	
オオツル	35		27.2%	29.6%		43.2%	
サチユタカ							
フクユタカ							
その他	1					100.0%	
計	2,942	12.4%	27.8%	41.6%	0.1%	18.1%	

###### （2）中粒大豆（主な用途：豆腐・味噌用）

（単位：トン、%）

品種名	検査数量	普通大豆				特定加工用大豆	種子大豆
		1等	2等	3等	規格外	合格	合格
あやこがね	5		100.0%				
エンレイ	1,056	1.1%	16.7%	49.9%	0.5%	31.7%	
オオツル	10					100.0%	
サチユタカ							
フクユタカ							
その他							
計	1,070	1.1%	17.0%	49.2%	0.5%	32.2%	

###### （3）小粒大豆（主な用途：納豆用）

（単位：トン、%）

品種名	検査数量	普通大豆				特定加工用大豆	種子大豆
		1等	2等	3等	規格外	合格	合格
コスズ							
その他	114			23.2%	12.8%	63.9%	
計	114			23.2%	12.8%	63.9%	

（各県ごとデータについては、北陸農政局ホームページをご覧ください）

<http://www.maff.go.jp/hokuriku/stat/data/daizu.html>

#### 4. 「消費者の部屋」展示 ～北陸の麦・大豆でヘルシーな毎日を！～

北陸農政局「消費者の部屋」において、「北陸の麦・大豆でヘルシーな毎日を！」と題してパネル展示を行います。麦、大豆の生産状況や健康機能性などについてパネルでご紹介するほか、大麦と大豆の実物、加工食品、お料理のレシピなどを展示します。

ぜひ、一度いらしてご覧になってください！

【期間】 11月30日（月）～12月11日（金）

【場所】 金沢広坂庁舎1階「消費者の部屋」

<地図>

